

日本ビクター株式会社 前橋工場

都道府県名	群馬県			
所在地	前橋市大渡町1丁目10番1号			
主要製品	オーディオ関連、カーオーディオ関連			
ISO14001認証 取得年月	1998年8月	最新更新年月	2001年7月	
問合せ先	AV&M人事部前橋センター		TEL: 027-254-8934	

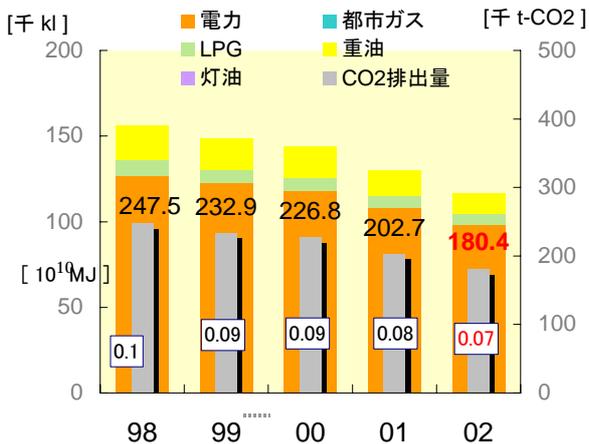
パフォーマンス
データ

順法データ

取組み紹介

環境方針

■エネルギー使用量

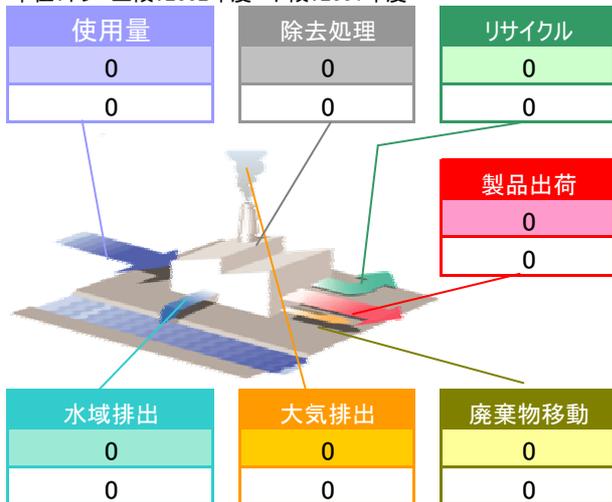


※電気CO2排出量係数は **0.357** で算出しています。
(ただし電気は1998年の係数で算出)

2002年度のCO2排出量は省エネルギー(電気使用量)の前年比10%削減で目標達成をしました。2010年度に向けさらに進めます

■化学物質マテリアルバランス

単位:トン 上段:2002年度 下段:2001年度



当工場は4物質の化学物質を使用しました。主に半田に含まれる鉛が0.25トンで、合計では0.33トンの使用量が2002年度の実績となります。更に量の削減を進めます。

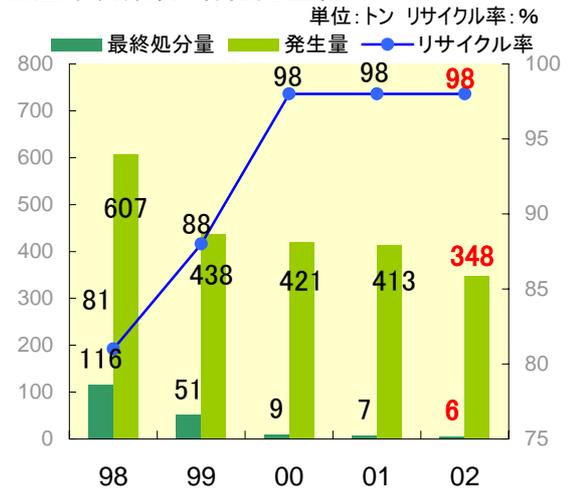
■大気汚染物質排出量

NOx	0 t
Sox	0 t

大気汚染物質の排出は冬季の暖房シーズンに使用する温水ボイラーからですが極めて少量となっております。水質汚濁物質も極めて少量の排出量となっております。

今後は排出量の更なる削減に向け、設備改善を進めます

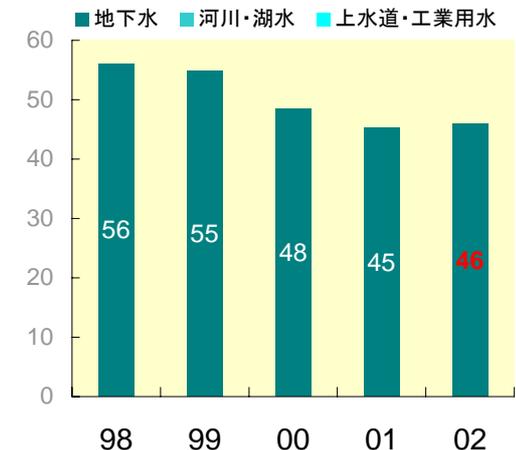
■産業廃棄物・有価発生物



2002年度のリサイクル率は98%を達成しました。排出量の総量削減は前年度に対し15%削減で目標を達成しました。排出量の削減活動を進めます。

■水の使用量

単位:千m³



前橋工場は全て地下水を使用しており2002年度は前年に対し微増となりました。設備の改善を行い増加の抑制を進めます。

■水質汚濁物質負荷量

COD	0 t
窒素	0 t
リン	0 t

■大気 (大気汚染防止法、条例・協定)

項目	施設名	規制値	実測値		
			平均値	最大値	測定頻度
NOx (ppm)	ボイラー1	180	65	65	1回/年
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	1回/年
Sox Nm ³ /h	ボイラー1	4.48	0.015	0.016	1回/年
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	1回/年
ばいじん g/Nm ³	ボイラー1	0.3	0.007	0.01	1回/年
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

主要な施設について記載

■水質 (下水道法、条例・協定)

項目	規制値	実測値		
		平均値	最大値	測定頻度
pH(中性7)	5.8~8.6	7.4	7.4	1回/年
BOD	600	82.4	82.4	1回/年
COD	-	-	-	-
SS	600	89.2	89.2	1回/年
ノルマルヘキサン	鉍物油	-	-	-
抽出物質	動植物油	30	3.1	1回/年
フェノール	0.005	<0.005	<0.005	1回/年
銅	1	<0.1	<0.1	1回/年
亜鉛	1	<0.1	<0.1	1回/年
溶解性鉄	0.3	<0.03	<0.03	1回/年
溶解性マンガン	0.05	<0.005	<0.005	1回/年
全クロム	0.5	<0.01	<0.01	1回/年
大腸菌群数(個/cm ³)	0	0	0	1回/年
窒素	10	0.6	0.6	1回/年
リン	-	-	-	-
よう素消費量	-	-	-	-
	-	-	-	-
	-	-	-	-

主要な排水口について記載

以下の健康項目は定量下限値及び規制値以下です

カドミウムおよびその(以下「/」と表記)化合物、シアン化合物、有機リン化合物、鉛/化合物、六価クロム化合物、ヒ素/化合物、総水銀、アルキル水銀化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン/化合物、ほう素/化合物、ふっ素/化合物、アンモニア・アンモニウム化合物および亜硝酸化合物および硝酸化合物(窒素)

■悪臭/騒音・振動/その他の順守状況

悪臭	基準値超過なし
騒音・振動	基準値超過なし

注釈>>>

・「規制値」は法または条例および協定の値を記載しています

・「-」は規制対象外または実測値なしを、「ND」は定量以下(不検出)を示します※2 ()は日間平均値です

※1 ()は日間平均値です

取組み紹介

前橋工場は群馬県のほぼ中央に位置し赤城山、榛名山系より流れる利根川の遠くに谷川岳を望み大自然のパノラマが展開する、環境に恵まれた地域です。

1969年5月にテレビ生産工場として誕生以来34年目を迎え現在はオーディオ関連商品の開発と商品設計をしています。当サイトは1998年8月にISO14001の認証取得後環境保全への取組みを推進し、各種委員会活動を通じ、省エネルギー活動、排出物の総量削減活動とゼロエミッションの達成。製品においては低待機電力化、はんだの鉛フリーへの切替え等、環境配慮設計を進めています。2002年度はグリーンプロダクツで2テーマ、クリーンファクトリーで3テーマ全て目標を達成する活動を行うことが出来ました。今後は製品に係る法規制が全世界的に整備され商品の企画段階から今まで以上に環境に配慮しなければなりません。部品一つひとつ、工程一箇所毎にその使用素材のみならず、副資材、工具においても有害化学物質を排除した原材料使用品で物づくりを進めなければなりません。完成された商品は当然ですが、その生産工程においても環境に配慮した仕様をする様取り組んでいます。



環境責任者 米本 正

環境方針

理 念

日本ビクター前橋工場は経営基本方針スローガンのもと、すべての事業経営活動において、「地球環境の改善」に取り組み、国際社会から信頼される「良き企業市民」として継続的発展が可能な社会の実現に向かって努力します。

方 針

広く環境の保全は企業の社会的責任であることを深く認識し、オーディオ商品（ミニコンポ、CDラジカセ、MDプレーヤー、カーオーディオ等）を中心とした機器の開発・製造・販売の事業活動において、環境改善活動及び汚染予防活動を次により推進します。

- 1 製品・サービスを含めた事業活動により生じる環境影響を常に考慮し、環境目的及び目標を設定し定期的に見直しを行い、環境負荷の継続的な低減を図ります。
- 2 環境に関する法規制及びその他の要求事項を遵守し、必要に応自主基準を設定し、管理の質の向上を図ります。
- 3 環境改善活動を推進するための組織・体制を常に整備し、環境監査を実施することにより活動の継続的向上を図ります。
- 4 国内の関連会社や海外事業所においても可能な限り方針に沿った活動を進め現地社会の一員として環境改善及び汚染の予防を推進します。
- 5 商品の開発においては、以下の重点事項を推進し、環境負荷低減型の商品を開発します。
 - 1) 地球温暖化防止(OC2削減)
 - 2) 3R
 - 3) 特定有害物質全廃
- 6 地球資源の有効活用のため、以下の事を重点事項とし、活動を進めます。
 - 1) 省エネルギー(電力)
 - 2) 鉛汚染の防止
 - 3) 排出物の総量削減
- 7 地域社会との共存共栄に配慮し、積極的に協力します。